

やすらぎ

特養居住者
佐々木アキノ 筆

第4号

発行 平成11年 6月25日
社会福祉法人やすらぎ会
編集 広報委員会



『がんばれ～、ほれ がんばれ～！』

〈錦秋湖マラソンのランナーに声援を送る特養住民〉

◆特別養護老人ホームぶなの園 ◆沢内村デイサービスセンター
◆沢内村在宅介護支援センター ◆ホームヘルプサービス事業
沢内村大字太田第2地割135番地 ☎0197-85-2322

◆沢内村高齢者生活福祉センターかたくりの園
沢内村大字大野第17地割140番地1 ☎0197-85-3388

平成11年度 重点課題

特別養護老人ホーム ぶなの園

特養には現在五〇名の住民が生活しています。沢内以外の方は湯田町七名、北上市七名です。

病院での入院等と違い、特養での生活は住所も移し、沢内村民としての生活です。

二年目を迎えた平成一一年度は、昨年を土台に次のような点を重点課題とします。

一、あらゆる援助活動の大前提として、ぶなの園住民の生活する居室やその他居住環境に対し、一層の清潔に心がけます。

二、五〇人の共同生活の中でも食事、入浴、排泄など人

間としての日常生活上の基本的生活への援助について
個々人のADL(日常生活動作能力)に合わせて、よりきめ細やかな援助に心掛けます。五〇人の住民が居られれば尿意の間隔も違いおむつ交換のやり方も違います。食事でも本人にとつて食べやすい提供の仕方等々、住民の立場での介護に努めます。

三、精神的、社会的自立への援助

身体的自立(おむつの方がポータブルに、車イスの方が歩行器になど)は人としての精神的自立につながります。日常生活上での基本的生活への援助を第一としつつも「買物に行きたい」孫の顔を見たい、「など住民それぞれの要望に沿い、小グループでの余暇活動を検討、実施します。

これには、地域住民、ボランティアさんのご協力も大切です。

四、生活リハビリを重視し

リハビリは専門の理学療法士の指導を週一回行います。その上で、職員用のリハビリ計画を作成し、職員が日常生活援助を通して行うよう努力します。

更に住民がリハビリの意義

を理解され、自ら行えるよう側面的援助に心がけます。

五、ぶなの園住民と地域住民との一層の交流を目指し、保育所や小中学校等との日常的交流を双方検討、交流します。

「特養住民への リハビリテーション開始」

四月から、特養住民に対しリハビリテーションが始まりました。

毎週火曜日の午後二時から五時までの三時間、PT(理学療法士)とOT(作業療法士)の二人において頂き、住民のリハビリの必要性の有無を診断して頂いている現在です。



腕の動く範囲を入念に確認

美容院に

行ってみたい

地域振興券を有効に

地域経済の活性化のために昨年の一二月、国の補正予算が成立し決定しました。「地域振興券交付事業」が今年の三月に実施され、ぶなの園住民、五〇人の方々も申請し、交付されました。

そこで私どもの施設では、ご家族の方々に、①預かり方②活用の仕方などをお聞きしたところ、左記のようにアンケートがまとまりました。

- ・施設で預かる 一八人
- ・施設に願ひする 三二人

また地域振興券の活用について家族からは、医療費に充ててほしい、施設で利用できるものを購入してほしい、下着など衣類を購入してほしいなどの希望があ



髪の毛をセットして気持ちも若返る

りました。

更に、住民の方々からは、買い物したい、お寿司を食べてみたいなどの要望があり、

五月一九日には「買い物ツアー」を実施しました。美容院に行ってみたいとの希望もあり、近くの美容院に車イスで数年ぶりに出かけた住民もいます。

今後も住民の意向を大切に温泉旅行やその他、ぶなの園ならではの工夫を共に考え、楽しんで頂くつもりです。
(生活指導員 高橋公男 記)



作業療法士 佐藤弘幸先生

上がる、立ち上がるといった、日常の基本的な動作が不可能になることが考えられます。様々な状況のもとで、残存する機能を活用し自立を促し、寝たきりを防ぐこと、それがリハビリです。

定や意欲の向上にも心がけるようにしています。リハビリテーションが終わると、身体状況から評価を行い、目標とプログラムを作成します。その日の目標を、住民が自らの意志で達成できるように、私達は援助や介助をさせて頂くのです。

また二カ月足らずですが、回数を重ねることに、意欲の向上、積極的な参加、体力の増進、腰痛の軽減など徐々にリハビリの効果が現われてきました。

今後、住民の方々と信頼関係を築きながらADL(日常生活動作能力)の向上を目指して、側面的援助に心がけていきます。

(寮父 高橋俊行 記)



理学療法士 松本義則先生

平成11年度 重点課題

在宅部門 各事業

的確、迅速に受ける上で非常にプラスとなります。

このような中で今年度は次の点を重点課題とします。

一、在宅訪問しての介護、生活の援助、相談活動の二四時間体制を目指します。今年度はホームヘルプサービスは七時〜二一時、また在宅全ての事業は、日曜日を除き、土曜、祝祭日も行います。

そのためホームヘルプサービスと在宅介護支援センターをひとつの部署とし、利用者の家族を含めた状況を的確に把握し円滑なサービス提供に徹底します。その際、次の点に注意します。

① サービスを受けるか否かの最終的判断は利用者または家族であること。

② 地域での高齢者福祉の維持、推進の中心的役割を果たしておられる民生委員、相談協力員との相互協力関係を大切にします。

③ 沢内村、病院、社協その他関係機関との協力関係を密

にすること。

④ 相談の窓口、関係機関との調整等、在宅福祉サービスの中核である支援センターは週二回地域に出て、相談活動や訪問活動を行う。

二、介護保険が今年一〇月より実質的に始まり、「認定審査会」が開かれます。これは、現在サービスを受けている利用者が平成一二年四月より介護保険が実施されると、利用の種類や内容が新たに検討されるのです。

保険料の支払い、今まで通り希望のサービスが経済的負担が可能な範囲で大丈夫か等々の心配、不安があります。

このような状況下、現在のサービス利用が維持、向上されるよう利用者、ご家族と共に学習し検討していきます。



を心待ちにし現れたのは、全く手をかけていない荒地でした。取っても取っても生えてくる雑草。鋏では掘り返せなく、トラクターを使うと出てきたのは、まるでかぼちゃやじゃがいものような石。石を拾い集め、むねを作るまでに多くの時間を費やしました。

最初は「こつたなどこさ、何にもできねんだ。」、「おら、やんだ。」と言っていた利用者も、作業を始めると口数が減り、時間が経つのも忘れまるで昔を思い出さすかのようになり熱心に行っていました。利用者、職員共に、秋の収穫を楽しみながら汗を流し、自宅に帰る前に飲む一杯のお茶は最高です。
〈デイケア母 高橋みどり 記〉

今年度四月一日より、デイサービスセンターA型かたくりの園の配食活動「たんぼぼ弁当」をやすらぎ会が行うことになりました。月曜日と木曜日の週二回、昼食の弁当を提供しています。

特養と比べ在宅の場合、利用者の嗜好状況が十分分かりません。献立を作成する際には季節にあつたものを使用し偏食防止のためより多くの食品を使用することを心がけています。職員も種々思考をこらし、利用者の誕生日に一番近い弁当配達日には、カードと果物やケーキなどを加えて誕生日をお祝いしています。



秋の収穫を 楽しみに

ぶなの園デイサービス 近況報告



土の感触を確かめながら作業を行う
デイサービス利用者と職員

沢内村の春もまだ早い三月に、畑作りの計画を立てていました。「春一番に、じゃがいもどが、葉ものを植えるもんだ。」、「手なしササギは手ががらねして楽なんだ。」などと、話が盛り上がりました。

湯田、沢内に生まれ育ったほとんどの方は農家です。しかし、現在は息子夫婦などに任せているのが現状です。そこで、ぶなの園に通う仲間

「雪が解けたら畑を作ろう」ということになりました。

昔を思い出し指先を使うことは、脳への刺激が強く自信にもつながります。確かに身体が思うように動かないなどの障害はありますが、一人ひとりができることを協力し合うことにも意味があります。ところが、雪解け



弁当を配達しながら
体調の変化にも気を配る

また、希望がある方に対しては、祝祭日でも弁当の配達を実施しています。これからも利用者の声を聞きつつ、より親しまれるような弁当を提供して行きたいと思えます。

〈栄養士 丹波直人 記〉



しなやかな舞いにうつつとく

沢内村高齢者趣味の会の皆さんと交流

「民舞踊」という趣味を通して様々な活動をしている沢内村高齢者趣味の会の皆さんが、四月二十八日、特養住民の前で素晴らしい踊りを披露してくれました。

踊りによって衣裳が次々に変わり、そのしなやかな舞いに住民の皆さんも大変喜んでおられました。

趣味の会代表者で、当日は進行役をされていた藤田文子さんにお話を伺いました。

「どのような活動をしているグループですか。」

「趣味を生かした仲間づくりと、健康で明るい老後を通じたい。というテーマを持ち月二回、講師を招いて楽しみながら練習をしています。また、地域の高齢者や障害者、小中学生と交流したり、村内外を問わず福祉施設等を訪問

踊りを踊られた皆さんの感想はどうでしたか。



踊りを通して特養住民と交流する趣味の会の皆さん

「ぜひまた見たい。という声もありますが...」

「今後もぶなの園やかたくりの園を訪問して、交流していきたいと考えています。」

「とつても上手な踊りだったよ。足が動けば一緒に踊りたかったなあ。」

若い頃踊りを踊っていたことのある特養住民の方のひとつ言。きつと心の中で一緒に踊っていたに違いありません。

〈支援センター 高橋 記〉

なんでも Q & A

当施設に対する村民の方からの疑問、質問にお答えします。

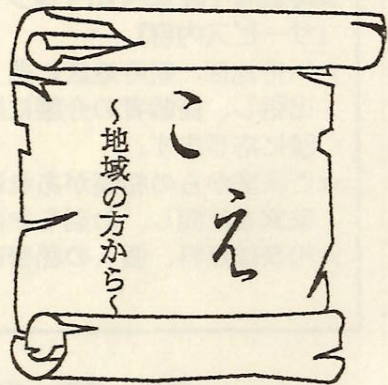
《質問》特別養護老人ホームの住民へ面会の際、手土産として食べ物を持参してもよろしいか。また、量はどの程度よろしいでしょうか？

《答え》ご家族、ご親族の面会はぶなの園住民にとってはこの上ない喜びです。そして精神的安定にもつながります。

その時、住民の方に茶菓子など好物をお持ちになるご家族のお気持ちは十分分かります。住民もそれにより、ご家族との絆を感じることでしよう。ですから食べ物(好物)をご持参頂くことは結構ですが、日持ちの悪い生菓子などは、量を控えて頂ければ幸いです。

ただ、糖尿病等で医師からカロリー制限を受けている方、その他の病気で食事制限を受けておられる住民をお持ちの際は、ひと言、寮父母に声をかけてください。また、生物などピン詰め等は、個人用冷蔵庫もありますので、寮父母に声をかけ利用なさるようお願い申し上げます。

手土産とは関係ありませんが、住民の食事内容で不満等ありましたら、職員に申し出てください。



『歩くことで』

地域のために』

村民待望の「ぶなの園」開所以来、一年二カ月が過ぎました。

私も昨春秋、在宅介護支援センターの相談協力員として委嘱状を受けました。民生委員の仕事をしている関係上、二股をかけているような感じですが。福祉の仕事に変わりなく、また仕事が一つ増え責任の重さを実感しております。

民生委員信条の中に、

一、私たちは「常に地域社会の実情を把握することに努めます」とありますが、云うは易く、行うは難しで苦慮して

いるところですよ。とにかく、小さな自分受持の部落だけでも「犬も歩けば棒に当たる」で歩くことに努力しております。

福祉関係の年表を見ますと大正六年に岡山県で、濟世顧問(民生委員の源)制度発足させるとあり、沢内村では昭和七年に初めて方面委員三名に辞令が伝達されたとあります。

以来、福祉の内容も複雑化し昭和二三年に民生委員法が公布されてから五〇年、先輩民生委員の方々の努力により現在の福祉社会ができたのだと思います。

来年度からは介護保険が始まるようです。しかし保険料やその他内容、実施時期等も未だ不明で不満ばかりです。



泉 沢 清さん

【のどにモチをつまらせたら】～意識がある場合～



①咳をして吐き出させる。



③左右の脇腹を引き絞るように圧迫する。

④それでも出ない時は掃除機を「弱」にして、ホースの先を口に入れ吸引する。

(注意：奥まで入れない)



②逆さにして背中をたたき、指を入れて吐かせる。

少年高齢化に伴い福祉施設等も追い付かず、在宅介護への道をたどることになり、支援センターの任務も重大な役割となつて来るでしょう。

及ばずながら私共相談協力員も微力を尽くして参る所存です。在宅で介護を受ける高齢者のためにも、一つの手がけた仕事を無事終え、満足感を味わえる自分のためにも。

在宅介護支援センターよりお知らせ

出張相談 始めました。

お気軽にご相談ください。

【サービス内容】

- ☆川舟地区、新町地区に週1回ずつ相談員が出張し、高齢者の介護に関するあらゆる相談に応じます。
- ☆ご家庭からの相談があれば、必要に応じて家庭を訪問し、お話をお伺いします。
- ☆相談は無料、個人の秘密は守ります。

【場所・時間】

- ☆川舟地区公民館 (85-2967)
毎週火曜日 9:00~12:00
- ☆新町地区公民館 (85-2959)
毎週木曜日 9:00~12:00
- ☆火・木曜日が祝祭日の場合、行事等で公民館が使用できない場合は、ぶなの園内の支援センターでお受けします。

編集後記

いよいよ本格的な夏が始まります。
 昨年のこの時期のことを思い返してみると、そう、やすらぎ会の広報委員会がうぶ声をあげたのが今頃でした。
 広報誌作成の経験など全くない人がほとんどで、記念すべき第1号の発行に向け、あーでもない、こーでもないと悩んでいたことを思い出します。
 あれから1年、なんとか順調に第4号まで発行することができほっとしながらも、1年前と変わらず、広報誌作りの難しさを感じている今日この頃です。

〈やすらぎ会広報委員〉
 高橋 渉 佐々木愛子 近藤富子
 照井由美子 高橋みどり

感謝申し上げます

- 平成一一年四月〜五月
- 沢内村高年齢者趣味の会の皆様
 - 深沢洋子様他 ボラン
 - ティアグループの皆様
 - 上新町、新町婦人会の皆様
 - (ホーム喫茶)
 - 沢内村理容組合の皆様
 - (特養住民散髪)
 - 高橋スミ様
 - (石けん寄贈)
 - (民舞踊披露)
 - 結びっこの皆様
 - (買い物ツアー)
 - 米澤淳子様
 - (衣類修繕)
 - 支援、ご協力
- ありがとうございました

在宅での介護のお悩みは

在宅介護支援センター まで

○支援センター直通 (平日8:30~17:30)

85-2319

○土・日・祝日、夜間 (17:30~8:30)

85-2322

※特別養護老人ホーム「ぶなの園」寮父母対応

お気軽にどうぞ